

生命環境農学科

募集予定

12人

わたしの
AO入試
(現 総合型選抜)



乾燥地農業や海外実習、やりたいことが詰まった鳥大

小6の時、父と旅行したネパールで3歳ぐらいの男の子に物乞いされた経験から、開発途上国の貧困問題に気付きました。また、アフガニスタンで医療活動に尽力した医師・中村哲先生の著書を読み、乾燥地農業にも関心が。鳥大には私の学びたい科目や海外フィールド演習といった実践的な授業があり、そこに大きく惹かれて志望しました。

高3の夏休みは願書づくりに集中。いきなり文章を書くのは難しいので、まずは伝えたいことを箇条書きにし、そこに肉付けしていく形で書き進めました。面接練習で役に立ったのが「面接対策ノート」。ただの小さな大学ノートですが、練習でうまく答えられなかった質問をメモ、それに対する回答を書くなどして本番に備えました。

論文に書いた内容は、面接でも答えられるようにしましょう

2次選考の課題論文は、具体的な体験談が入ると説得力のある内容になります。ただし、内容について2次の個人面接で尋ねられる場合が。質問されることを意識しながらまとめることも大事だと思います。私は論文を書き上げたことに満足して終わっていたので、面接で詳しい説明を求められたときは慌てました。グループディスカッションでは進行・記録・タイムキーパーといった役割分担があったのですが、私たちのグループは進行役の人がタイムキーパーも抱えてしまい、ちょっとぐだぐだに。役を担うことは自己アピールにつながりますが、できないと思ったら無理は禁物。場の雰囲気大切にしながら、みんなで活発に意見を交わし合うことが何より大切ですね。

3年

ふきはる

吹春 やよいさん (福岡県立輝翔館中等教育学校 出身)

MY
FAVORITE
"TOTTORI"

爽やかな甘さの「二十世紀梨」

鳥取県の農作物はどれも特徴的で美味しいものばかり！中でも私が好きなのは、シャキッとした食感の「二十世紀梨」。爽やかな甘さで、いくらでも食べられるんですよ。

全文は
Webで!



第2次選考

選抜のポイント、面接・論文等の出題例等

- 2022年度総合型選抜がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。
- 2023年度総合型選抜が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して
求める力

生命環境農学科では、自ら積極的に学び、傾聴力と協調性を持って学んだことを実践で応用できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

課題論文	「自主的、自発的に学ぶためには、何が大切だと考えますか。あなたの経験を踏まえて、具体的に1,000字程度で述べてください。」という課題について記述するものでした。
グループディスカッション	「近年、日本は国際競争力や発言力が低下し、相対的に貧しい国となりつつあります。日本が抱える問題のうち皆さんが最も深刻であると考えられる問題を示してください。また、その問題を解決するために、若い世代、特に大学生はどのような取り組みをするべきなのかをまとめてください。」というテーマについて、グループディスカッションを行いました。
個人面接	3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。また、基礎的な英語についても試問しました。

●選抜方法と求める能力の関連

選抜方法	思考力・判断力	表現力	主体性	協働性	農学の課題解決に対する意欲
2次(課題論文・面接)	○	○	◎		◎
2次(グループディスカッション)			○	◎	